



福岡県感染症情報ホームページでは、
感染症発生情報、病原体検出情報などを
ご覧になれます。

がん感染症疾病対策課感染症対策係
担当 中尾 長藤
直通：092-643-3597
内線：3065

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和8年第22週（令和8年5月25日～令和8年5月31日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- 手足口病の定点当たり報告数が5.31となり、従前の警報レベル（大きな流行が発生または継続しつつあるとされる基準値：1 定点医療機関当たりの報告数5）を超えました。手足口病は、子どもを中心に主に夏に流行します。感染から3～5日後に、口の中や手足に水疱性の発しんが現れます。発熱は38℃以下のことが多く、通常数日間で症状が消失しますが、発しんが消えた後も、2～4週間は便にウイルスが排泄されます。本疾患は、飛まつ、水疱内容物への接触、糞口感染により感染拡大しますので、保育施設等の集団生活の場では特に注意が必要です。予防のためには、日頃から石けんと流水で十分に手を洗う、タオルの共用をしない、排泄物（おむつ等）を適切に処理する等を心がけましょう。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	17	323	273	5,529
腸管出血性大腸菌感染症	1	46	49	827
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	1	2	12	62
マラリア	1	1	1	15
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	27	17	389
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	30	22	590
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	16	10	236
侵襲性肺炎球菌感染症	1	60	55	1,361
水痘（入院例）	1	15	16	325
梅毒	11	281	177	4,341
百日咳	5	131	102	2,988

■ 定点把握疾患報告数

警報

注意報

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	57	0.47	1.30	1,348	0.36
インフルエンザ	7	0.06	1.00	346	0.09
急性呼吸器感染症	5,364	43.97	0.96	174,467	46.81
RSウイルス感染症	39	0.56	0.93	678	0.30
咽頭結膜熱	75	1.07	1.23	1,034	0.46
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	294	4.20	0.88	6,927	3.07
感染性胃腸炎	431	6.16	1.00	11,886	5.27
水痘	58	0.83	0.97	870	0.39
手足口病	372	5.31	1.41	2,213	0.98
伝染性紅斑	2	0.03	2.00	182	0.08
突発性発しん	42	0.60	1.45	811	0.36
ヘルパンギーナ	75	1.07	1.36	443	0.20
流行性耳下腺炎	4	0.06	2.00	109	0.05
急性出血性結膜炎	0	0.00	-	10	0.01
流行性角結膜炎	31	1.19	1.07	316	0.46
細菌性髄膜炎	0	0.00	-	14	0.03
無菌性髄膜炎	0	0.00	-	22	0.05
マイコプラズマ肺炎	3	0.20	1.50	108	0.22
クラミジア肺炎	0	0.00	-	2	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	-	25	0.05

こどもの夏かぜに注意しましょう

夏かぜとは？

夏にこどもを中心に患者数が増える感染症の総称で、以下に示す感染症が主なものです。

例年、5～6月に流行が始まり、7～8月にピークを迎えます。



	咽頭結膜熱 (プール熱)	手足口病	ヘルパンギーナ
主な症状	高熱(38～39℃)、咽頭炎、結膜炎	口の中、手のひら、足の裏などの水疱発疹、発熱、大人が感染した場合には痛みが強くなることが多い。	急な発熱(高熱)、口の中(奥)にできる水疱(痛みで食欲不振になることあり)
原因ウイルス	アデノウイルス	コクサッキーウイルス、エンテロウイルス	コクサッキーウイルス、エコーウイルス
感染経路	●飛沫感染 患者のくしゃみや咳に含まれるウイルスを吸い込むことによる。 ●経口感染・接触感染 水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手指やタオル等を介して、口や目に入ることによる。		
潜伏期間	5～6日	3～6日	2～4日

感染を予防するためには

- 手指は石けんと流水でよく洗う。
これらのウイルスはアルコール消毒が効きにくいため、石けんと流水で手を洗いましょう。
症状がおさまった後も2～4週間程度は、便などにウイルスが排出されています。普段からトイレの後、おむつ交換の後にはしっかりと手洗いをするのが大切です。
- タオルの共用はしない。
タオル等からの接触感染によりひろがります。症状がある場合には、自宅でもタオルなどを共用しないよう注意しましょう。
- 咳エチケットに努める。
症状がある場合はマスクを着用するなど咳エチケットに努めましょう。



手を洗おう



マスクをしよう

感染症の発生動向については、左のQRコードから福岡県保健環境研究所のホームページをご覧ください。

福岡県 感染症 発生動向

検索

福岡県

